

■ 今宵出演した団員を紹介します。

指揮者

栗山 功 1958 栗山洋服店営業係。団員の注文は嬉しいが、モウケにならないとコボス。リズムのガッチリした指揮ぶりを見せる。

マネージャー

熊代厚生 1963 大成火災海上保険。オタマジャクシと、勝負事以外ならなんでもやれる。天性の苦勞性。かつ、アイデアマン。かくあってこそマネージャーも動まる。

ファーストテノール

天野克彦 1962 藤永田造船所。シビレテ、泣かせる特異な声の持主。

上柴 茂 1957 高津高校の化学の先生。独創的な試験問題を考えるのが楽しみというからコワイ先生。

齊藤三朗 1959 協和銀行和歌山支店 愛妻の内助の功により和歌山より練習にかけつける。

中山 享 1960 ススムと読む。野村証券。生れナゴヤの言葉が人柄にマッチしてユーモアいっぱい。

今村 肇 市大グリークラブ渉外。モダンでイキな好青年。美濃部克己 市大グリークラブ三回生。

原田佳晃 1962 日本オレフィン化学(川崎)。第一回の演奏会と聴き、急きよ米飯の予定。洗練された得がたいテノールの声主。

セカンドテノール

井上喜光 1963 三和銀行ナンバ支店。彼一人で演奏会がモツような素晴らしいソリスト。

掛谷正宏 1962 日興証券岸和田支店。彼が話すと泣く子も笑うというのはホントツ。半面、音感が鋭い如く、神経も細かい。

喜田博之 1961 喜田株式会社社長。とは言え軽四輪を駆って朝早くから夜遅くまで走り廻っている。こんな男を一人ではほっておく女性の眼は、フシアナカ。

小林庄次郎 1959 大商証券布施営業所。忙しい仕事に拘らず、間隙をぬって練習に来る。同期生中唯一人の独身。若き日のベーターベンに似る。

中田武仁 1961 東洋棉花機械第二部 ますますアブラが乗って肥えて来る一方。アイツばかりがなぜモテル——合唱団一同。

井上英康 1961 朝日銀行。呼称ロングイノウエ。

バリトン

石原潤一 1962 ダイキン工業 オヤジさんと一諸にモーツァルトを楽しむ家庭に育った。

谷岡 昇 1957 三洋電機 一見モノシズカだがコーラスにかける情熱はシブトイ。

田村純朗 1959 ナショナルタイヤ 笑顔がとても良い。数字に強い。

八尾 武 1961 大日本セルロイド 勝負運がそれほどあるようには見えないが、花札が好き、初心者を見つけてはルールを教え、相手にしては楽しむ。

松本邦紀 1963 大阪証券金融 目立たない存在だが、居ないと穴が空いたような感じがする。

米田直也 1960 大阪銀行本店 昨年12月に結婚したばかり。デュークエイセスのバリトン氏に似ている。パンチのきいたニグロが好き。

渡辺 馨 1959 住友商事鋼管一課 はじめから判り切っていたのに気をもたせて、このあいだ、ようやく婚約発表。挙式は今春三月。二人ともイタリアオペラの大ファン。

バス

明松邦雄 1957 明松会計事務所 カガリと読んで下さい。長身で、スタイルが良い。白いコンテッサが愛車。但し既婚。

桂 貞夫 1959 大阪ローヤルクラウンコーラ販売 昨秋結婚したばかり。コーラの王様 ローヤルクラウンコーラを！(さすがPRのサントリーだね)

豊永定幸 1959 尼崎市交通局 金がたまって仕様がないうという不思議なおトコ。あやかりたい。

中島泰典 1962 竹中工務店設計部 昨秋週刊ヤングレディ誌に、設計部の独身男性というグラビアが載りましたが、あいにく撮影当日は欠勤しておりました。ここに、その、もう一人が居ります。ヨロシク。

宮田 潤 1958 三洋電機 イイオトコ。練習のある日にバーなど行かなきゃ、もっとイイオトコなんだが……これは禁句。

村上 勇 1958 長瀬産業 一昨年までアメリカ。昨秋は結婚。堂々たる偉丈夫。声もいい。ベテランスキーヤー。

山本謙一 1958 富士火災海上保険 地下鉄は動物園前で降りる。階段を上ると新世界。そこの酒屋さんの息子。アルコールにはそんなに強くないし、信じられないが本当。

三栖 隆 市大グリー指揮者。器楽に強い。来年はチェロをやるという。昨秋亡くなったケネディ大統領に似る。

諏訪部和彦 市大グリー三回生。

山内荘作 1957 山内金属 長かった独身生活に間もなく別れを告げるそうだが、未だ真相を語ってくれない。

★(ゴチック体の数字は卒業年です)

応援出演

高村 昭 毎日放送アナウンサー。毎日曜日9時45分より「真珠の小箱」に出演している。落ち着いた風格のある聴き手として好評だが、今夜はまた、違った一面を見せてくれるという。

村井真理子 大阪児童放送合唱団で、テレビ、ラジオに良く出演したから、おなじみの人もあろう。たゞし今から10年前のこと。現在、大阪市大政学部二回生。

この演奏会の開催にあたって下記の方々より資金援助を頂きました。厚くお礼申し上げます。

山本 忠夫	西田 大麓	岡田 皓三	石井 陽三	福重 英世	丸目 安忠
掛谷 正宏	上柴 茂	井上 知三	多田 得郎	吉川 恵之助	田村 純朗
栗山 功	石原 潤一	井上 喜光	谷岡 昇	喜田 博之	八尾 武
小林 隆三	中山 享	渡辺 馨	村上 勇		

(以上、1月10日までに、受け付けたものまでです)



南澁会合唱団第一回演奏会 1964. 1. 18 SAT. 7.00P. M. 心齋橋日立サルーシホール

みなさま
こんばんは
今宵はようこそ
おいで下さいました

南澁会合唱団

実に申し訳ないはなしなのですが、演奏会の当日を迎えた、今日になって、果して、どんなステージが出来上るのやら、さっぱり見当がつかないのです。

それにも拘らず、かって、市大グリーの演奏会のステージに、幾度かは立っているメンバーばかりですから、若い日の、あのソワソワ、ワクワクした、あの気持ちを思い出して、今日も、あいかかわらずソワソワ、ワクワクしています。

ボク達は、昨春、練習を始めるとき、ステージのための練習ではなくて、自分自身が合唱を楽しむための練習をしようじゃないか、ということをお願いしました。あれから毎週木曜日、今年のお正月二日の木曜日を除いて、練習を休んだ木曜日はありませんでした。その上に、合宿と臨時練習が幾度かありました。この一月には、5日、9日、11日、12日、15日、17日と練習でした。

しかし、残念ながら、昨春の申し合せは、どうやら、いつの間にか、ステージのための、リサイタルのための練習にすり替ってしまいました。それでも、まだ、今日のこのステージが、どうなるのやら分らないといった、ありさまです。どうか、この不始末をお許し下さい。

まだまだ、ずっとずっと先のことでしようが、いつかはきっと、ステージのための練習ではない、自分自身が合唱を楽しむための練習から生れたハーモニーを、お聴かせしようと固く決意しています。どうか、それまで、歩みののろいボク達でしようが、いつまでも、ボク達の合唱団を見守って、機会ある度に御支援下さるよう、第一回の演奏会の幕が上がる前に、是非お願いしておきたいと思ひます。

PROGRAMME

指揮 栗山 功

- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| 1. 夜 鶯 | ロシア民謡 |
| 2. 十二人の盗賊 | ロシア民謡 |
| 3. Adoramuste Christe | Orlando di Lasso 作曲 |
| 4. Ave Maria | Vittoria 作曲 |
| ~~~~~ | |
| みんなでいっしょに歌いましょう | |
| ~~~~~ | |
| 5. おきななじみ | |
| 6. こんにちは赤ちゃん | |
| ~~~~~ | |
| 休 憩 | |
| ~~~~~ | |
| 7. 寂しき春 | 室生犀星 詩 上柴茂 作曲 |
| 8. 河童音頭 | 火野葦平 詩 上柴茂 作曲 |
| 9. Love's Old Sweet Song | J. M. MOLLY 作曲 |
| 10. 貝売り娘 | アイルランド民謡
福永陽一郎 編曲 |
| 11. Aura Lee | イギリス民謡
Georg. R. Poulton 作曲 |
| 12. 五木の子守唄 | 熊本地方民謡・清水脩作曲 |
| 13. 機織唄 | 埼玉県民謡・清水脩作曲 |
| 14. 最上川船唄 | 山形地方民謡・清水脩作曲 |

歌いたい曲が、いっぱいあります。まるで、氷山の一角を、ハリの先で、つついているようなじです……………

★一昨年には、ソヴィエト国立アカデミー合唱団が、昨年は、モスクワ合唱団と、相次いで来日してから、日本の合唱団の演奏するロシア民謡は、どうも水で割ったようで、聴く側には、魅力半減の昨今です。やはり、本場モノの味を知れば……でしょうか。

そんなことを口にする先から、ロシア民謡を歌おうというのですから、さぞかし自信が……？ いやいやとんでもない。やっぱり、歌っていたら楽しいんです。つい手が出てしまいます。

★宗教曲ほど、歌っていてきれいだな、良いなあと思う曲はありません。歌っている人には、これぞコーラスの醍醐味という他はないような境地に誘われます。たゞたゞ、惜しいことには、聴いている人には、きわめて、タイクツなネムたい曲であるということです。宗教曲を、いきなりスツと歌って、聴いている人が、良いなあと言ってくれるようになれば、合唱団の水準が、かなり高度であることを自認して良いでしょう。ボク達の宗教曲は、まだまだ皆さんの子守唄のようで……？ 恐縮です。

★みんなで、いっしょに歌いましょう！合唱演奏会に行かれて、一諸に歌えたらなあと感じられたことはなかったでしょうか。中には、聴いているだけで胸がいっぱいになる、そんな深い感動のある演奏会もあるでしょう。しかし、今夜はその心配は、なさそうです。ボク達も、そんなタイプでない演奏会にしたいと考えています。ですから、遠慮なく、大きな声で歌って下さい。ボク達も一諸に歌います。このごろ、NHKテレビで、「ミッチと歌おう」というプログラムが人気を呼んでいます。あの中で「みなさんは、テレビのそちら側で、私達はテレビのこちら側で……」というミッチミラーのセリフがあります。今夜は、それをいたゞいて、「みなさんは、ステージのそちら側で、ボク達はステージのこちら側で。さあ歌います。やさしい曲、はやっている曲、みなさんご存じの歌ばかりです。」

★「寂しき春」「河童音頭」の二曲は、上柴茂作曲、正真正銘の本邦初演の曲です。上柴茂なんて、聞いたことのない名前？ どうぞ4ページを御覧下さい。私達のメンバーです。「河童音頭」は、1960年、雑誌

「合唱界」の読者の作曲ルーム入選作です。雑誌に、ガクフが載りましたが、演奏されたというウワサは、まだ聴かれていないので、本邦初演は、まちがいありません。「寂しき春」は、その後、正確には昨年11月の作。ついでに言えば、上柴氏も人が悪く、自分の合唱団の実力を知りながら、転調→読みかえ→転調と、変化記号をいくつもつけて、自分も一諸に、音を取るのに苦労しています。短い割には、悩まされた曲であることを御察下さい。なおこの曲について、卒直なご感想が頂ければ幸いです。

★「貝売り娘」は、哀調を帯びた、アイルランドの民謡です。アイルランドの首都、ダブリンの街を、きれいな声で貝を売って歩いていた、モリイマロンという名の娘が、熱病にかかって死んだ。しかし、彼女を愛していた、ダブリンの街の人々の耳には、いつまでも、いつまでも、その美しい声が聴こえて来る——といった不思議に心をゆさぶる、美しい曲です。蛇足ながら一言。

★最近になってから、日本民謡が合唱演奏会のステージに、しばしば登場するようになりましたが、私達の古巣、大阪市大グリークラブでは、ずっと以前から日本民謡は、欠かせないレパートリーの一つでした。今でこそ、合唱の良さを十分に生かした編曲が、沢山出ていますが、一と昔前には、日本民謡を歌いたくて、というので、耳の冴えた(?)グリーメンが編曲を担当して、それで歌って来た時代もありました。

民謡といえば、仕事や祭り、それに祈りがあってこそその存在でしたが、現在では、民謡の持っているこれらの存在理由には、ほとんど無関係の生活を、私達はしているわけです。それでも、こうして、かなり現代風に整理されているリズムやメロディであっても、日本民謡を歌っていると、私達がすでに忘れ去っている日本人の生活、その持っているエネルギーや、美しさに思い当たります。そして、たまたま、現在でも歌い継がれている、ナマの姿の民謡が紹介される機会にでも、接すれば、それに対する理解は深まり、ますます親しいものとなって、次の新しい曲を求める意欲になって来ます。

そんなわけで、日本民謡は、私達の、限りなく愛着を覚えるレパートリーになっています。

因みに、最上川船唄は、毎年、若葉の頃になると、テレビニュースの季節日よりか、なにかで、川下りの画面と共に、その原曲を聴くことが出来ます。今年のその季節には、注意して、見ていて下さい。

私たちの合唱団が、今夜の演奏会にこぎつけるまでに……………

練習に集まる人数が、40名を越えたら演奏会をやろう——こう言っているうちに、もう11年目を迎え、ついにシビレをきらした団員と、セッカチな団員が、早産気味(?)な演奏会を今夜ひらくことになりました。流産しなかっただけが、とりえのようなのですが……。

大阪商科大学グリークラブ時代以来、40年の歴史と伝統を誇っている、大阪市立大学グリークラブでありながら、その卒業生は、一時はミヌール男声合唱団を作って(昭和2年ごろ)、合唱コンクールに入賞したり、戦後は、グリーンエコーの前身である、ジュピターコールの主要メンバーであったりしながらも、ついに、全卒業生を組織した合唱団は、作り得ず、ようやく、昭和28年、グリークラブの現役と、卒業生で「南濤会」を結成しました。そして、この名称の下に、現役のリサイタルに賛助出演をする他、信州の演奏旅行に出かけたり、合唱祭、合唱コンクールに参加し、ラジオに出演するなど活動を続けて来ましたが、「南濤会」だけでは、三百名を越す会員の組織と、合唱練習に集まる会員の数が、余りに開きすぎるので、昭和36年、「南濤会」のうしろに「合唱団」をつけ加えて、昭和37年春には、この団員の再確認をやり、合唱団としての組織と機構を整備して、現在の「南濤会合唱団」が誕生するに至りました。

「南濤会」が発足したときには、練習に集まる40人の「壁」は、その年の卒業生から教え始めても、2-3年で達成される「ハズ」だったのですが、世の中がセチ辛いのか、卒業して行くグリーメンが、世間の風でツタマを冷やされるのか、現在に至っても、その「ハズ」が実現されません。それどころか、最近、ジェネレーション交代のテンボが、急に速まったようで僅か数年の差で、レパートリーから練習のやり方まで、良く意見が衝突して、練習に集まる人の中でも、意見が容れられないで、欲求不満を訴える人が、出て来る始末。世の中は、せわしく、忙しくなったものです。

それでも、今夜のステージには、30名前後が、マークできました。(中に、市大グリーの現役が入っていますが、レッキとした団員です。応援メンバーなどでもなく、ましてやニセ者ではございません)ハーモニイの魅力にとりつかれて、同じカマのメシを何年か食って来たコーラスのムシばかりです。毎週の練習が充実し、外に対しては、一夜ずけではない成果が発表出来る、それが、ムシの集りの唯一の夢なのです。ケムシ変じて蝶になる、といった派手なムシではありません。さしずめ、コガネ虫かカブト虫でしょうか。少々騒がしいのがタマにキズですが、誰からも親しまれる、ナガモチして、堅実なムシばかりです。

どうか、いつまでもこのムシの集り、南濤会合唱団を可愛がってやって下さい。

今夜の演奏会について御感想、御批評、その他お気付きのこと、あるいは、私達の合唱団へのお便りなど、お渡ししたアンケートハガキに御記入のうえ、ご投函下さい。

